で「提示」と書いたのを「掲示」と読み違えられて、「森の中のどのような場所に掲示しているのか」という質問が来ました。そんな大層なものではない、とお返事しておりますが、たしかに見ごろの花や実を紹介する掲示板などあれば、（最近増えた気がする）通行人の関心を引くことができるかもしれない。

⇒「島熊山花ごよみ 2023」は別冊です。

6. 会計報告　西川 泰子

2023年会計報告（単位：円）

現金（2023 1.1～12.31）

収入の部		支出の部	
前期繰越金	108.075		
年会費 1000円×33名	33.500	編集費	44.205
交付金(竹林)	120.000	道具購入 手袋 鉄他	40.104
寄付金(炭谷)	5.000	ボランティア保険 300円×27名	8.100
本代他	1.161	竹林整備費	53.400
		ポスター代	3.420
		その他 会場費 茶菓代	33.803
収入合計	267.736	支出合計	183.032
次期繰越金(1)	84.704		

郵便貯金明細

郵便貯金	535.590
利息	4
合計(2)	535594

次期繰越金合計

(1) 現金	84.704
(2) 郵便貯金	535.594
合計	620.298

以上報告いたします。　会計　西川泰子

活動報告

西丘小学校の子供たちとの観察会　2023 年 11 月 2 日

秋らしい天気にも恵まれ、西丘小学校３年生３クラスの元気な子供たちと島熊山のみやこぐさの草原～観察路を歩きました。今年のテーマは「どんぐりや、秋の実りをみつけよう」。

私の担当はどんぐりで、帽子（殻斗）の違いによる見分け方、葉っぱの違い、芽や根の出方、どんぐりの赤ちゃん（２年成りのどんぐり）などの話をしました。はたして１クラス 30 名の小学生にどこまで興味を持って聞いてもらえたかどうか、不安に思うところです。

けれども、途中で拾ったどんぐりを見せて楽しそうに話しかけてくれたり、コムラサキの実をおそるおそる食べてみたり、ジョロウグモの小さなオスを探したりして喜ぶ様子を見ると、身近なところにある島熊山の自然に親しんでもらえたのではないかと感じることができました。（北田勝章）

森の手入れ活動

11 月 12 日（日）曇り

肌寒い曇天の中、先月に続き、今年春から夏にかけて雨で活動が流れたために伸び放題になった竹の伐採を行った。天高く伸びた竹は周囲の木の枝や蔓と絡み合っていて、切った竹を引き倒して短く切るまでの作業にかなり手間取った。今日皆で切った竹は約 60 本、良い筋トレになった。

今回作業を行った豊島高校側は豊中市が関係者以外立ち入り禁止に指定している場所で、人の出入りが殆どないため、作業現場に行く道も荒れてわかりにくくなっていた。その中に道が陥没している上に落ち葉が積もって陥没に気付けない場所があり、会員がそこで転んで手を着き、手首を骨折するという事故が起きてしまった。道が荒れているという理由で豊中市が立ち入り禁止にした結果、人が入らないためにさらに荒れるという悪循環になっている。立ち入り禁止が早く解除されることを望んでいる。（高橋 由美子）

12 月 10 日（日）晴れ

12 月とは思えない暖かさでした。青空の下、木々の紅葉がまぶしく光ってとても気持ちよかったです。里道の草刈り、新御堂まで通すグループと、草原の草刈りと、市の草刈りで残されていたススキを刈るグループに分かれて作業しました。

私は、ススキを刈る事にしました。ススキはそれほど多くはなくて、やってみるとほとんどメリケンカルカヤで、これが柔らかくて鎌に巻き付いたり、ハサミの刃のすき間に挟まったりと、なかなか苦労しました。柔らか過ぎても反って刈りにくいこともあるんだなと感じた次第です。ススキ刈りは、小一時間で終わって、草原の草刈りにまわりましたが、これまたフジのつるが絡んで、ササが上からかぶさってきて、ササの下にもぐるように鎌で刈り、切り株をハサミで地際からカットと二段構えで、刈っていきました。何とか 2m ぐらいは、刈り進めたかな。汗びっしょりになりました。見守る様に高い木の上でモズが高鳴きをしていました。刈りこんだ後は獲物が少しは探しやすくなったかな？（土田 泰子）

モズ

清掃ハイキング

11 月 19 日（日）晴れ

この日は、市（の請負業者）が草刈りをしてくれていたようで、ごみはほとんどありませんでした。なので、「清掃」と言うよりも、草花などを観察しながら「お散歩」という感じでした。コウヤボウキ（高野箒）の白いかわいらしい花があちこちで咲いていて、ナンテン（南天）や、見た目は南天によく似たピラカンサ？が、赤やオレンジ色の実をつけていました。どんぐりも、細長いもの・ずんぐりしたものなど、いくつか見つけましたが、「今年はどんぐりが少ないな～」と、皆さん口を揃えておっしゃっていました。とはいえ、せっかく鍬やノコも持参しているのに、散歩だけでは物足りない。なんか刈るところはないかなと思いながら歩いていると、ちょうどおあつらえ向きに、「千里緑地」の看板（立て札）がすっかり草や笹に覆われて、全く見えなくなっているではありませんか！　「よっしゃ、やったるで～！」と、大張り切りで刈りまりました。よく目立つようになったと思います。冬に差し掛かる時節ですので、しばらくの間は大丈夫じゃないかな？　（木村 真）

コウヤボウキ

看板もはっきりと

12 月 17 日（日）晴れ

2023 年最後の清掃ハイキングは、参加者 14 名による清掃作業とモニタリングの他に、土田さんには希少植物の周囲を保護囲いするための竹串作りを行って頂きました。

清掃作業では、ゴミ拾いの他に側溝に溜まった落ち葉や土砂の除去を行いました。回収ゴミは僅かでしたが、落ち葉は思いのほか多く溜まっていて、全区間の撤去は叶わず残りは来年へと持ち越しになりました。側溝からの落葉や土砂の取り出しは、不自然な姿勢での作業となり大変だったことと思います。忙しい年の瀬を控えて、皆さんに筋肉痛、腰痛などの影響が出ないことを祈ります。

思えば――、今年の役目を終えた落ち葉の姿は、島熊山の樹木たちがこの一年懸命に生きた命の証ともいえます。又、「山中には色づいた木の実が多く目についた」とのモニ 1000 班の報告がありましたが、これ又将来の島熊山に新たな命の誕生と繁栄を約束する草木の姿を物語るものでしょう。共に在るものとして、互いの一年に思いを馳せてみるのも楽しく又大切なことかも知れません。

最後に私事で恐縮ですが――、振り返れば 10 年が経過していました。島熊山の保全と動植物たちに真摯に向き合われる会員一人ひとりの姿から、私は多くのことを学ばせて頂きました。改めてお礼申し上げます。やむなく休会することになりますが、皆様のご健康を心よりお祈りいたします。

（松田 淳二）　　【回収ゴミ】カン８、ペットボトル２、ゴミ袋（燃えるゴミ１，燃えないゴミ１）

1 月 21 日（日）曇り

集合時間少し前から雨がザーと降り出し思わず空を見上げましたが、遠く西の空には晴れ間も見え天気予報の雨雲レーダーも雨無し予報。「？？？」な空模様でした。参加者 11 名でモニ 1000 班と清掃 2 班に分かれてそれぞれ作業しました。

私は西町周回道路沿いの側溝の清掃に参加しました。側溝にびっしり積もった落ち葉を熊手と塵取りですくい上げ、ゴミ袋に詰めてフェンスの中へヨイショ、木々の根元まで運んで…の繰り返しです。高さ 15 センチ程びっしりと側溝を埋め尽くした落ち葉は、雨をたっぷり吸い込み容易には持ち上げられません。体力の無さを痛感しました。三叉路からバス停方面目指して進んだのですが、なかなか作業が捗らず途中でタイムアウト、落ち葉清掃は中断してゴミ拾いだけに専念しました。

普段よりは空き缶や紙クズ類は少なかったのですが、タバコの吸い殻のポイ捨てが目立ちました。途中、カード式の健康保険証 1 枚を側溝の落ち葉の中から発見。何故こんな所にポツンと？と思いました。翌日、新千里中央交番に拾得物として、島熊山の雑木林を守る会の名前で届けました。（森山 真理子）【回収ゴミ】ビン 1、カン 4、ペットボトル 3、傘 1、ゴミ袋（燃えるゴミ 1、燃えないゴミ 1）

配水場トンボ池調査

土田 泰子

10 月 25 日（水）　晴れ　気温 22℃、水温 21.5℃　参加者 10 名

今年初めての赤トンボの姿を確認しましたが残念ながら写真は撮れず、種名までは分からなかった。常連のシオカラやショウジョウトンボの姿はなく寂しい。網ですくってヤゴや水生昆虫を確認した。久しぶりのコオイムシの姿を見たのが嬉しかった。

◇見つかったトンボ：アカネ SP2、アオイトトンボ多数、ヤンマ系ヤゴ 3

◇その他昆虫：コオイムシ、マツモムシ、オンブバッタ、ショウリョウバッタ、シジミチョウの仲間

◇その他：コモリグモの仲間、ミナミヌマエビ

◇植物：セイタカアワダチソウ、ススキ、アレチヌスビトハギ、ボントクタデ、ツユクサ、アメリカセンダングサ実、エゴノキ実、セイヨウミヤコグサ

アオイトトンボ

ヤンマ系ヤゴとコオイムシ

11 月 22 日（水）　快晴　気温 22℃、水温 26℃　参加者 8 名

日が射しているとぽかぽか温かい。今年最後のトンボ池、もう草の繁茂は広がっていなかったが、引き続き池の浅い部分の草刈りを中心に行った。前回撮れなかったトンボの仲間が今回は、しっかり見られて良かった。

◇トンボ科系ヤゴ：2 匹見つかる。まだ小さい。

◇植物はススキ、セイタカアワダチソウ、ノブドウの実、野鳥はメジロの声が聞こえていた。

コノシメトンボ♂

キタキチョウ

島熊山でオオコノハズクが確認されました　熊代直生

千里少年文化館のある付近で鳥類標識調査を再開して 1 年となりました。20 年前には想像もできなかった「普通種だったアオジがいない」という現状に打ちひしがれつつも、変わらず帰還したシロハラやルリビタキに安堵した本年 1 月 7 日の調査でしたが、最後に古池付近で捕獲された鳥は、ハトよりも小さなフクロウの仲間、オオコノハズクでした。豊中市では昭和中期に記録されて以来、50 年ぶりぐらいの再確認になるかと思われます。夜行性の上に大きな鳴き声を出さないため、確認が非常に難しい鳥で、これまでにも人知れず生息していたのかもしれません。小鳥を餌にすることもあり、実はアオジがいない原因のひとつだったりはしないか、という疑惑もないではないですが、街中の森にもこんな住人がいること、心の隅にとめておきたいものです。

オオコノハズク

翼下面には黒いワンポイント

思慮深げな横顔

もふもふの足に標識リング